



Title	自転車道リニューアル工事が自転車道の使用と通行の速さに与える影響
Author(s)	豊泉, 有理
Citation	大阪大学経済学. 2025, 74(4), p. 63-63
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/100642">https://doi.org/10.18910/100642</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

【2024年度 学生懸賞論文受賞作 優秀賞要旨】

## 自転車道リニューアル工事が自転車道の使用と 通行の速さに与える影響

豊泉有理

大阪大学豊中キャンパス正門入口は、多くの学生が通学のため自転車で走行しており、専用の自転車道が設置されている。しかしながら、路面表示の劣化や、オートバイの不正入構を阻止するためのH型自転車ゲート等の障害によって、利便性が損なわれており、自転車利用者に対する自転車道の使用割合は低いものであった。この問題に対処するため、大阪大学では自転車道のリニューアル工事を行った。

本稿では、自転車道整備が、自転車利用者の行動に与える影響を検証した。また、その際施

工された加速体感型矢羽根型路面表示について、仕掛学の観点からその特徴を分析した。工事の段階に伴って自転車道使用割合と走行スピードを観察し、重回帰分析の結果、H型自転車ゲート撤去、自転車道の色分け、文字表示、加速体感型矢羽根型路面表示には自転車道使用割合を上昇させる効果があり、またH型ゲート撤去には走行スピードを上昇させる効果があることが示された。また、整備の効果は一定期間の後も持続することが示された。